



『まだまだ間伐、もっと間伐』

通年コース第七回開催報告 「間伐」

間伐は人工林の造成において不可欠のできない技術です。通直でかんまんな用材を生産するためには、ヘクター当たり2000本〜3000本の苗木を植えるのが一般的で、樹冠の閉鎖を早めて雑草や灌木の生育を抑えるとともに、順次間伐によって劣勢木を淘汰していきます。極端な例では、酒樽用の樽丸材生産に特化した吉野では、1万本以上の植



年に一度の島崎先生の間伐講義

栽と多間伐で、年輪が密であり等間隔で、心材率が高く、繊維のよじれの少ない高品質の杉材を育ててきました。また、お隣三重県の尾鷲林業地は6000本〜8000本のヒノキを植栽しこちらの間伐を繰り返して優良な心持ち柱材の生産を目指してききました。

まれに、足場丸太や旗竿など、丸太材を生産していた四谷の林業地(びつくり!!昭和初期までは東京23区内でも



米寿を迎えられてもとても元気お元気の生

植生の生育を促進する雨の土壌侵食による土流出防止

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路

木材生産が行われていた)のように、数千本の多植をしてほとんど間伐を行わない所もあつたようですが、これは切り出した小径材が製品なので、例外といえは例外の部類に入ると思われます。
目指す用材の形態や山林の地位等によって方法はまちまちですが、樹高が10メートルを超えるところから間伐を始め、15メートルを超えるところにはヘクターあたりの本数を1500本以下に減らしていくのが普通の手入れです。間伐は優良材生産という目的がありますが、そのほかにも下層

し、さらにそこが希少動植物の住処となつて生物多様性にも貢献します。水源涵養や治山にも役立ち、樹木自身も肥大成長が旺盛になるため風雪害や病害虫の発生を抑え、また、スギ花粉の量も減るのではないでしょう。即ち、公益的機能が大幅にアップすることになります。
逆に間伐が滞っている山林は、幹材積の蓄積こそ大きいものの、一本一本が細く、枝葉の量も少なく、風雪害や豪雨に対する耐性も低い山林になつていっています。昨年の夏は台風や前線の影響で各地で多くの災害が発生しました。7月の初めには台風8号の大雨により、南木曾町で土石流がおき、さらに8月の旧盆には福知山市や丹後市での豪雨災害がありました。さらにすぐ後には広島市の西部での土石流による大災害が発生しています。
つい先日、丹後市で開催された森づくりシンポジウムで、市内で最も被害の大きかった市島地区で地域の森づくりにかかわっておられる方のお話を聞く機会がありました。地元の手入れ不足の山林を何とかしなくちゃ、と周りに声をかけて活動を始めた、ちょうど一年後の豪雨災害だった



こんなに細いのに61年生

と嘆いておられました。日本の原風景といつても差し支えないこの地区で、翌日に一日だけ災害復旧のお手伝いをしました。集落の背後に迫る、折り重なって倒れるヒノキ林は、予想していた通り、手入れが停滞し、下層にほとんど他の植生の見られない山林でした。30度を超える傾斜で、マサ土化した花崗岩のようで、周囲を見渡せば、由良川の支流に水を集める小さな溪流や洞沿い、山麓堆積地に、いくつもの崩落跡を見ることが出来ました。
山林の手入れ不足が直接的引き金になつたのかどうかはわかりませんが、我々の作業した崩壊地の真中に、アンカー用を利用した太いヒノキがけなげに3本だけ残っていたのが印象的でした。
そして、シンポジウムで基調講演をされた丹羽健司さん(森林塾OBです)、現在NPO法人地域再生機構で「木の駅アドバイザー」をされています。全国展開をしてい

る「木の駅プロジェクト」はじめ「森の健康診断」や「山里聞き書き塾」などの仕掛け人でもありますが、講演の中で面白いことをおっしゃっていました。農水省勤務の時、愛知県で山林主の方々にアンケートをお願いしたことがあつたそうで、持ち山の手入れ状況を聞いた設問の答えの大半は「ほぼ手入れが出来ている」とのことだったので、日本の人口林の半分以上は手入れが滞っている、というのが知る人ぞ知る事柄なのに、です。「何故?」の答えは知己の林業家の一言、「だって山林主といえど、今じゃほとんどが素人でよく知らないんだよ。」とのことでした。
さて、島崎先生においていただき行われた間伐の回、近畿地方に大雨をもたらして日本海に去つた台風11号の影響で、1日目は奇跡的に現場に入れたものの、2日目の土曜日は一日雨の予報で、残念ながら中止の判断をすることにになりました。暑気払いも次回に延期、お楽しみは持ち越しです。
通年コース第七回
7月17日(金)
間伐
参加者/有賀さん、小口さん、小池さん、都筑さん
講師・スタッフ/島崎先生、川島、早川

『伐倒の設計と施工』

専門コース第2回開催報告

伐倒すべき木が一本一本違っているように、ある一本の木を倒す場合も、人によって切り方もそれぞれです。ちょうど自分の住んでいるところから遠くの所に向かう場合、例えばまずは飛行機にするか、船にするかあるいは電車で行くのか、バスか、または自家用車にしようかなどと手段を考えます。あるいは何日、何時間かかるのだろうか、早いほうがいいよね、などの日程とか、安くすめば、それに越したことがないのか、お金に糸目をつけずに豪華にいつてみようなのかそんな費用面も境界条件の一つになります。そんなこんなを

いろいろ考えた末、日程や手段を決めることになりまます。そしてお天気とか、混雑具合とか、体調管理などの不確定要素もできる限り想定して安全で楽しい旅ができるようにプランを練ることでしょう。

木の伐倒の場合、確実に抑えておかなければならないことはその木の重心の方向です。平地の場合重心方向を見誤ることはそんなにはないのですが、傾斜がきつくなってくる人間目は意外に錯覚を起こしやすいものです。傾斜地だから当然下側(谷側)に向いているだろう、という先入観に邪魔されるのでしようか。山側に傾いていることも珍しくありません。はつきりわからないと

きは、ポールとか鳶口とか長いものおぶら下げて、樹幹が左右どちらに傾いているかを調べ、同じことを90度回った位置からも繰り返し、幹の傾きを調べます。これに枝ぶり(片枝などの)を加味して重心方向を推測します。

重心の方向がわかれば、次は周りの木を眺めて、かかり木を作らないように伐倒できる隙間を探すことになりまます。かかり木はお隣の木に梢が引っかかって倒れなくなるものなので、対象木の梢が通る隙間を見つけてることが肝心です。搬出があればそれも加味して伐倒方向を決めることはもちろんです。

さて次は伐倒の手段です。素直に重心方向に倒せる場合は道具も必要になりませんが、矢(クサビ)やフェリ

ングレバーを使う程度で倒れるのか。ロープやさらにはチルホールなどの牽引具が必要なのか、プロはこれらを一目で判断するのですが、われわれ素人は時間をかけてじっくり考えても構いません。あらゆる可能性をテーブルの上に出して、検討してみましょう。

うっかりのかかり木は解消時間が10倍かかります。ぼんやりと100本切っても倒した結果しか残りませんが、よく考えて10本切ればあなたは確実に名人に近づきます。

7月3・4日(金・土)
専門コース第2回開催
 参加者/小林さん、佐藤さん、松崎さん、三田さん、八木さん

次回以降の予定

集中コース(夏)
 7月31日~8月2日
 (金~日)

測樹のデータから現況を分析し、間伐するかどうかがどのくらい間伐するのかが決める方法を学びます。そして**施業の診断**づくり、そしてその診断をもとに間伐をすることにします。それら一連の考え方を勉強するとともに、チェーンソーの使い方基礎から覚えていただきまます。盛りだくさんの3日間です。8時20分鳩吹集会所集合。電卓、お弁当、飲み物は多めに用意ください。一日目の調査、分析には島崎先生においでいただけることになりました。交流会にもご参加の予定です。山の話いろいろ

いるお聞きできそうですね。なお、8月1日・2日はちょうど伊那まつりの日に当たります。1日は通り町で市民踊り、2日、日曜日は山峰川合流点で花火。御用とお急ぎでない塾生の方、覗いて行かれたらいかがでしょう。

通年コース第8・9回
間伐・集材
 8月21・22日(金・土)

金鳳寺山林で間伐のつづきと、林内作業車または簡易ウィンチを使って集材をしてみます。実践が終わった一日目の金曜夕方には、お楽しみのお暑気払いの予定です。前回の間伐で、林齢が61年ということがわかりました。さらに樹高は女性班の調査よりやや高そうな感じでした。もう一度森林診断書を引き張



店長啓さんがロープ・ウィンチのデモに来てくれた



太めのアカマツも、もうばっちり



お仕事にも生かせそうかな



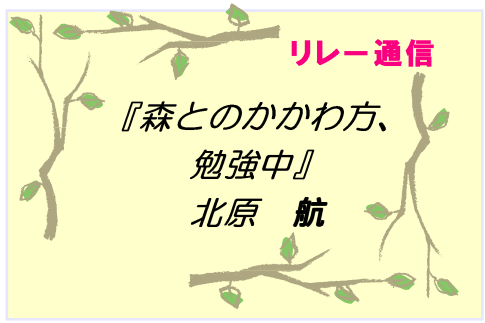
地元の山林手入れにも活躍中

り出して眺めて見てください。地位は、低く、り、他の、値、の、う、の、響、く、の、う、で、宿、題、です。

専門コース第3回開催
9月11・12日(金・土)

今までの4日間で伐倒の腕前もそこそこがって来たと思います。さてこの3回目の開催では今までにうまくいかなかったところや、指摘された注意点をもう一度思い出し、克服努力をしてみてください。次のこと、次のことを常に予測して、いかに安全確実にとせるかを考えてみましょう。ランクアップした現場を探してみます。

8時20分 鳩吹集会所集合です。



はじめまして。今年から参加させていただくことになりました北原航と言います。まず最初に私の自己紹介をさせていただきます。私は宮田村に住んでおり家は少し高台にあり宮田村が一望できる場所にあります。毎朝、最初に目に飛び込んで来るのは南アルプスの壮大な山

並みです。したがって、小学校時代は家庭訪問に来る先生方には「とても眺めがいい場所ですね」とよく言われました。少し家から下ると田んぼばかりの風景が広がっています。学校帰りの田んぼや、周りの山から聞こえるカエルとヒグラシの鳴き声がとても好きで、その鳴き声を聞くと「ああ夏が来たなあ」と感じます。家の裏には山がたくさんあり、夏の暇なときは友達を誘って山へ遊びに行くことがあります。(今年からみんな部活等で忙しくなるので遊べるかどうかとは思いますが...) そのほかに、山に行く機会は家で飼っている犬との散歩の時間です。夏場はアスルトの照りつけが暑いかからでしょうか、山に行くくと照り返しもなく涼しいので楽しそうに飛び回ります。しかしこの間の散歩の

とき、犬にマダニがついてしまい、山に行くことを獣医さんからドクターストップがかかり、散歩では行けなくなっていました。しかし山へ行くことは嫌いではないので一人でもまた行きたいと思っています。 次に私が通っている学校について書きたいと思っています。私の通っている学校は上伊那農業高校で昨年120周年を迎えた歴史ある学校で、その中の私は緑地創造科に所属している2年生です。余談ですが緑地創造科は男ばかりで、部活ではクワスの3分の1が野球部です。去年の夏の高校生野球では初のベスト4を記録しました。その時は私もテレビにくぎ付けになりながら見ていました。今年は去年よりいい記録が出るかと期待しています。さて、余談はこの辺にして私の学科について説明したいと思います。

の頃にはこわごわと運転しながらバックホウの資格を取得しました(今となってはほとんど操作方法を覚えていませんが...)。今年と来年は土木施工管理士2級と、フォークリフトの運転資格も取るようですが、合格するかどうかは少々不安です。農業系の授業は大きく分けて3つありますが、測量の授業では平板測量法を使って学校の土地測量をしたり、森林科学ではつぎ木の調査をしたり、農業土木施工では公園などの道に使うチップの調査などを行っています。

私が森林と深く関わり始めたのはいつからかと思いついてみると私の父が薪ストーブを購入したのがきっかけでした。父に「一緒に薪を取りに行こう。」と言われて「まあ暇だからいいかな。」という感覚でついて行きました。森の中には自宅近くにある小さな裏山に少ししか入ったことがなかったのですが、本当の森の奥に入るとそこでは小さな裏山では見られない、空を覆い尽くすような高く大きなそびえる木々、心地よい涼しい風、鼻から肺まで通る新鮮な空気を感ずることができ、「森にはこんなに人の心を落ち着かせリフレッシュしたような気持ちにさせてくれる場所なのか」と初めて思いました。

その日のことがあってから、前回よりも自宅近くの裏山に行く頻度も増え、どんどん森に興味を持つようになっていきました。自宅近くの裏山の山道を歩いていると「熊出没注意」の看板を発見しました。いままでは自宅近くには動物はサルやタヌキぐらいいしか出てこなかったため、少し恐怖心が生れました。それから言うものニューズや新聞などでクマなどに襲われる被害などに関心を持つようになり、その情報に見入っていました。そこから私は鳥獣害についても知りたいと思いついて去年の秋、信州大学主催の地域住民を対象とした環境共生の未来学 第1期生に参加させていただきました。そこでは毎回専門の講師の方をお招きし、講義をしていただきました。またフィールドワークも行い実際に剥皮被害にあった木々や、クマの爪で木の皮をはいだ後などが見ることができました。また、鳥獣用に使う罠の使い方を見たり、罠が歩いたであろうと思われる道を自らの足で辿ってみたりもしました。(ちょうどその日は猟解禁日だったので四方八方で銃声が鳴り響いていました。)そのあとのゼミでは、特にシカに注目し、シカやサル、クマの殺処分方法、シカ肉を使ったジビエ料理についてなどを学びました。ジビエの勉強をした後実際にジビエ料理を食べる機会があり、それまでのジビエ料理に対しての印象は「癖がありにおいがきつく、かたい肉」と勝手に決め付けていましたが、実際に食べてみるとそんな考えを打ち砕くような、やわらかい肉とくさみの全くないうちを味わうことが出来ました。信州大学主催のゼミも今年の1月末の修了式で、無事終わらせることができました。信州大学主催のゼミでは主に鳥獣害について学べ、高校では学ぶことが出来ない内容の濃いことを勉強することが出来ました。

今年の春にもう少し森林について理解したいと思いついて動物以外にも測量などを勉強なさっている、このKOAの森林塾で勉強させていただこうと思いついて、近所に早川先生がいらっしゃるのでお願いして参加させてもらうことになりました。



私の所属している学科では主に森林科学、測量について学んでいます。1年生

私は、皆さんに比べ、専門的知識が全くと言っていいほどの皆無なので、ご迷惑をおかけしてしまうかと思いますが、皆さんと一緒に勉強させてもらいたいと思っております。どうか今年1年よろしくお願ひします。

リレー通信



『“森の生活”案内人』
佐藤 芳雄

『長野の別荘地を良くして
こい！どややるかは行つて
から考える！』今から17年程
前に私が勤務していた別荘
地開発・運営会社からこんな
ことを言われて私は長野県
に来ました。私が来た時のそ
の別荘地は木が鬱蒼と茂り
とても別荘地とは言えない
状態でした。長野勤務に不安
と期待を持ちながらも別荘
地を良くするために何をす
べきかと考えていた私はま



伐木し
30本程
の木を
口付近
の別荘
地に入
して別
と相談
いかな
く教え
仕方を
伐木の
いから
金が無
のオツ
チャン

ず『別荘地の玄関口である
入口付近の鬱蒼とした森を
きれいにすべきた！』と考
え実行することにしました。
『別荘地を良くするのはいい
けど、良くするための費用
として今までより予算はど
のくらい多く取ってもらえ
るのですか？』と聞いてみ
たところ社長からの返答は
『追加の予算は無い！今まで
と同じ予算でやれ！おまえ
の判断で使っているのは月
5万円だ！』との答え：
『えっ？』『はあ？』『この別
荘地54万坪/2400区画
もあるんですけど...』今思
い出すと笑い話ですけど、
そんなことを言われても当
時の私はバカさなのかな？若
さなのかな？即『お金が無い
なら自分で伐木してやる！』
と決め当時アルバイトに來
ていた伐木経験のある地元
のオツチャン達に『金が無

ました。これが私の人生初め
の伐木です。
別荘地の入口付近の整備
も一段落したある日、私はタ
クシーに乗り勤務していた
別荘地まで行ってください
とお願ひしたところ、タク
シーの運転手さんが『あの別
荘地は最近綺麗になったよ
ね』と言ってくれてとても
嬉しかったことを覚えてい
ます。
さて、そんな伐木デビュー
を果たした私ですが、その後
は自身で別荘販売等の会社
を起業したこともあり森を
手入れする仕事より会社経
営に明け暮れる毎日となつ
てしまいました。但し、別荘
関係の仕事ということもあ
り長野県の森林に対する問
題や取り組みなどは常に耳
にする環境の中で仕事をし
ていました。

そんな日々を送る中で私
は『こうあ木工舎(興亜化成
株式会社の木工部門)』の中
村さんにある集まりで出会
いました。その集まりで中村
さんと意気投合した私は、自
身の会社で建築関係の仕事
もしていることから中村さ
んに建具や家具の制作依頼
をしました。『伊那の森を良
くしたい』などと熱く語る中
村さんを面白いやつちゃな
くと思ひ意気投合しただけ
で仕事を頼んだ私は当時『中
村さんは家具作家でこうあ

木工舎は中村さんが経営し
ている小さな会社』だと思つ
ていました。
ところが、こうあ木工舎か
ら初めての依頼品が納品さ
れて請求書が来る前に中村
さんから『請求は(株)興亜化成
で来ますから』と言われて
『何それ？？？』とこの会
社？？？という話しになりま
した。この時に私は初めて(株)
興亜化成という会社の取り
組みとKOA森林塾の存在
を知りに中村さんが語って
いた『伊那の森を良くした
い』という意味も本当に分
かったような気がした記憶
があります。
話は変わりますが、中村さ
んと出会った時期と丁度同
じころ私にも一つの転機が
訪れます。ある別荘地運営会
社から『今までの経験を活か
して別荘地運営全般をやつ
てみないか』というお話を頂
いたのです。私自身別荘地と
いう一つの町を運営するこ
とは夢でもあったことから
その話をお受けして別荘地
運営事業を開始しました。
そこで過去の経験と記憶
がよみがえります。もう一度
自分達で別荘地内の森を手
入れしよう！実は過去にお
金が無くして自分達で伐倒し
た経験は、お金以上に別荘地
というその町に対する愛情
が変わることを実感してい
た私は、こうあ木工舎の中村

さんに連絡して弊社のス
タッフと一緒に『KOA森林
塾』の申し込みをすることに
しました。
私達が参加しているのは
伐木造材の専門コースです
が、とても勉強になり實際に
山に入って伐木を行うこと
からとても自信が着くと思
います。私にいくら伐木の経
験が有るといっても所詮は
我流！ということがよく解
ります。早川さん・和泉さ
ん・川島さんインストラク
ターの皆さんから口を揃え
たように『佐藤さん本当に今
まで怪我しなくてよかった
ね』と言われて『とほほ...』
という感じですが、それだけ
安全面にも考慮したうえで
の講習内容には感謝してい
ます。
また少人数にインストラ
クターさんが一人付いてく
れるので自分が質問したい
ことも自由に聞くことがで
きて、且つ自分が経験したい
ことにも柔軟に対応して頂
いているところでも非常に感
謝しているところであり他
では出来ないことだと思っ
ています。伐木方法の説明に
ついてはその物事に応じて
理論的に説明頂いたり、実
験を持って経験させても
らったりと私自身が本当に
いい経験と自信を付けさせ
てもらっているのが今後も
多くの人にKOA森林塾を

語って行きたいと思ひます。
また、私のように林業とは
ジャンルが違ってても自然や
森や木があつて仕事や生活
を成り立たせている多くの
人たちが、今後もKOA森林
塾に足を運び自ら山に入り
何かを感じてくれることを
期待して文を終わりたいと
思ひます。
おわりに
台風11号が日本海に抜け、
長野県に近づくと7月17日の
午後、雨はほとんど降って
いませんでしたが、予定して
いた暑気払いのBBQの中止
を決めた際、インストラK氏の
ひとこと、「台風が近づいて
いるのに焼肉なんかしてら
れないでしょ」福岡生まれで
学生時代は鹿児島県の彼は台
風が近づくと胸がざわつい
て落ち着かないんだとか。台
風の被害に縁のない、とい
うか実感のない(ここ四、五十
年は)伊那谷生まれの私には
ちょっとわからない感覚で
す。飯田、伊那は水や雨の災
害の比較的少ない所かも。

投稿大歓迎。ご意見ご質問
は早川までお気軽にご連絡
ください。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp

